

山行報告書

京都田辺山友会

平成 27 年 8 月 18 日

報告者 中島貞夫

| | | | | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|---------|-------|---------|-------|---------|
| 山名 | 北アルプス 槍ヶ岳—北穂高岳 | | 山行名 | 個人山行 | | | |
| ルート | 新穂高—槍平—槍ヶ岳—大キレット—北穂高岳—涸沢—上高地 | | | | | | |
| 山行日 | 平成 27 年 8 月 14 日~17 日 | | | 天候 | 晴れ、曇り、雨 | | |
| 参加者 | リーダー： 中島 男性：小川 女性：染矢、岡本 計 4 名 | | | | | | |
| コースタイム | | | | | | | |
| 8/14 | | 8/15 | | 8/16 | | 8/17 | |
| 京田辺 | 7 : 00 | 穂高駐車場 | 3 : 50 | 槍ヶ岳山荘 | 5 : 15 | 北穂高小屋 | 6 : 00 |
| 穂高駐車場 | 13 : 00 | 指導センター | 5 : 30 | 大喰岳 | 5 : 30 | 涸沢小屋 | 8 : 30 |
| | | 穂高平小屋 | 6 : 35 | 南岳 | 8 : 20 | 横尾山荘 | 11 : 00 |
| | | 滝谷出合 | 8 : 50 | 南岳小屋 | 9 : 00 | 徳沢 | 12 : 00 |
| | | 槍平小屋 | 10 : 05 | 北穂高小屋 | 13 : 45 | 明神館 | 13 : 00 |
| | | 千丈分岐 | 12 : 50 | | | 上高地 | 14 : 00 |
| | | 槍ヶ岳山荘 | 15 : 00 | | | 穂高駐車場 | 15 : 00 |
| | | 槍ヶ岳 | 15 : 45 | | | 京田辺 | 22 : 00 |

山行報告

槍ヶ岳から穂高の縦走を計画してそれぞれトレーニングもして臨んだが、11 時間の長時間の登りは厳しかった。槍平から飛騨沢の登りは 4 人共一步足を上げるのもしんどかった。肩の小屋について小休止してから始めて登るメンバーもいたので、記念写真を撮るのに雲に追われるように槍の穂先にのぼったが足は重かった。宿泊客は約 200 人ほど、さすが人気の槍ヶ岳である。翌日、高山病の症状と疲れで食欲がなくて心配したが大喰岳を登りながら様子を見ることにして、日の出を見てからスタートした。中岳、南岳まで大パノラマに魅了されて先に進む気力が出たようなので、今回山行の大きな目的の大キレット縦走に挑戦した。南岳からのガレ場を慎重に下ると、最難所の長谷川ピーク、ここは慎重に通過して北穂の小屋を見上げる壁、飛騨泣きを小休止、小休止を繰り返してよじ登る。飛騨側はガスに覆われてなにも見えない中を無事小屋に到着、「乾杯」。宿泊客約 20 人ほど、個室のような部屋で 4 人ゆっくりと寝られた。

夜中から雨が降り出し、明るくなっても強い雨に今日の予定を中止して、涸沢へ下山することに小屋を 6 時に出る。下るに従い登山道は川になって水の中を歩いている感じ、特に鎖場は一步一步慎重に、慎重におりた。涸沢は雪渓が広く残っていて、テン場は例年の半分位の広さしかないと考えた。雨が続く中、登ってくる人も多い。少し歩きやすくなった路を横尾へ着くとほっと一息する。上高地に無事帰れて今回の山行も終了、お疲れさまでした。京田辺まで運転有り難うございました。

「おまけ」猿の群れ、赤ちゃんが背中に乗って、おなかにぶら下ってかわいらしかった。

ヒヤリハット

つまづいて転倒、擦り傷、軽いネンザ。ヤケド。

山を知らない時から、尖った槍ヶ岳は、気になる山でした。こんな山に登る人はすごいんだろうなあと思っていました。その通り、やはり簡単ではなかった。新穂高の駐車場から槍ヶ岳までなんと遠い事！特に槍平小屋を過ぎてからが長く、だらだらと続く登りに、荷物も重い。槍ヶ岳が見えたと思っても一向に近づかない。疲れで眠たくなってきた。はあやっとう槍ヶ岳山荘に到着、いつも遠くに見ていた槍ヶ岳が近っ！よく見ると、小さな登山者達で渋滞中。もうクタクタです。それでも初めての槍ヶ岳は登らないと！と重い体で岩と梯子の頂上へ。途中で体調がおかしいと感じると、それ以降、全く食事が取れなくなりました。2日目、大キレット通過の最重要日。少しでも食べ物を口に入れると嘔吐。これは、下りるしかないかと思う。しかし、幸い頭痛もなく、食べなければ吐き気もないので、南岳まで行き、エスケープルートを選択肢にする。槍ヶ岳をバックに槍穂高連峰を歩いていると、壮大な自然の力を感じる。振り向くと槍ヶ岳が聳え立つ。昨日のしんどさなんか忘れてしまうほど価値のある時間だ。南岳に着く頃には、朝の弱気とは一転、計画通り北穂高に向かう事にしました。



シシバナ展望台から大キレット、長谷川ピーク、飛騨泣き、北穂高小屋を見渡す。今日の自分は、長谷川ピーク、飛騨泣きより、北穂高小屋までの気の遠くなるような登りが怖い。体力が続くだろうか。いよいよ大キレットに突入、もう進むしかない。怖がらず慎重に、落石をしないように丁寧に歩く。緊張しながら岩を登っていると“Hピーク”の見覚えのある文字。おーうわさの長谷川ピークだと、思わずシャッターを切る。A沢のコルで一息。飛騨泣きは過ぎたの？まだこれからと、飛騨泣きがどれなのか皆が定かでない。多分、これが飛騨泣きだろうという所を無事に過ぎ、最後の登り。なんであんなに高い場所に山小屋をとブツブツ言いながらゆっくり登る。昨日のだらだらとした登りより、岩登りの方が力が分散されて登りやすい。着いた！何も食べていない体でよく頑張った。お疲れ様でしたと4人で握手をかわす。日本一高い山小屋は、絶景で、ああここまで来られて良かったとつくづく思いました。相変わらず食欲はなく、おかゆを1杯すすり、宿泊者の少ない日で4人で個室状態で眠りについた。予報通り朝方から雨音がし出した。思っていた以上の激しい雨で、予定を繰り上げて上高地に下りる事になりました。出発を1時間ずらし、6時に北穂高小屋を後にする。雨は激しく、登山道は川のように滑らないように慎重に下っていく。これがまた上高地まで遠い！ビショビショになりながら我慢強く歩く。やっと到着し、上高地から新穂高駐車場まで、タクシーに乗った時には、本当にほっとしました。浴場で体重を計ると4kg減。中学生以来見た事のない数字だ。食欲は戻り、飛騨牛が食べたいと言いながら無事帰路へ。中島さん、小川さん、染矢さんに心より感謝致します。

